

思考・判断・表現の分析と授業づくりのアイデア例

【思考・判断・表現】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中2	66.9	91.7	77.3	61.2	37.5	54.2

全体の正答率は66.9%でパターン判定はⅢでした。特に次にあげる問題4(4)の正答率は次の通りとなっており、D層の生徒の多くが正答できていません。

【問題4(4)の正答率】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中2	56.1	94.3	75.9	46.2	7.9	86.4

このような結果となる要因として、心情を表す表現を的確に捉えられていないことが挙げられます。このことについて授業づくりのアイデア例を右側に掲載します。

【正答】
緊張する気持ちから、三線を高らかに
ならしてみようと思う気持ち

（条件）「気持ち」から、「三線」を
（条件）「三線」から、「気持ち」を
（条件）「三線」から、「気持ち」を

中山さん 歌人は、心を落ち着かせるために目を閉じたんだ。
酒井さん そして、鯉の音を聞いて、心をめくっているね。
中山さん そのあと、心を決めてまたを聞いているよ。
酒井さん 歌人の心情は、目を閉じる前から、またを聞くまでの
間に、
変化があった。そうして、三線を弾くことができたんだ
ね。

話し合い
（4）次は、文章を読んだ生徒たちが話している場面です。話し合いの
にあてはまる言葉を、あとの条件1-3に従って書きなさい。

【授業づくりのアイデア例】

語彙力を高め、文脈を捉える

辞書を使って言葉の意味を調べる時間を設定します。その際、本文を読みながら、どのような意味で使われているのかを確認するようにします。特に複数の意味がある言葉については、その言葉の前後の表現と言葉の意味を照らし合わせることで、文脈を捉える力を身に付けるようにします。

言動に着目しながら心情を読み取る

心情を読み取るためには、「嬉しい」「悲しい」など心情を直接表す言葉だけではなく、登場人物の言動など、その背景から考えることも必要です。文章中からポイントとなる言動を抜き出し、その前後からどのような思いがその言動につながっているのかがわかる表現に線を引きます。線を引いた部分から、そのときの心情を短い文でまとめます。登場人物の言動と心情が結びつくことを理解して読み取ることが大切です。また、読み取った心情をもとに、どのような変化があるのかを考えてまとめることで、文章をより深く理解することにもつながります。

3年生

知識・技能の分析と授業づくりのアイデア例

【知識・技能】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中3	68.3	86.3	75.4	64.9	46.6	39.7

全体の正答率は68.3%で、A-D層の差は39.7ポイントでした。特に次に挙げる問題2(4)の正答率は次の通りとなっており、A層にとっても正答できない生徒が多くいました。

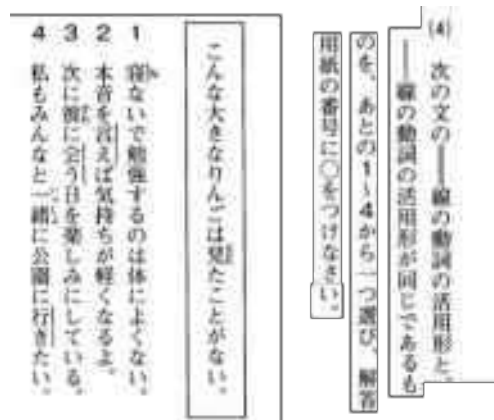
【問題2(4)の正答率】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中3	29.4	40.5	29.1	25.4	22.4	18.1

この問題は、川崎市全体で29.4%という結果でした。動詞の活用形についての知識理解が定着していないことが考えられます。このことについて授業づくりのアイデア例を右側に掲載します。

問題内容：活用形が同じ動詞を選ぶ
＜実際の問題＞

（解説）
問題文は連用形。
1は未然形、
2は仮定形、
3は連体形、
4は連用形、
よって、この問題の正答は4となります。



【授業づくりのアイデア例】

①あとに続く語で判断する

動詞の活用形を判断するには、それぞれの活用の意味や主な続き方を覚えることが大切です。活用語尾の変化によって活用の種類がわかりますが、活用形はあとに続く主な語を認識していると判断がしやすくなります。あとに続く主な語を覚え、様々な練習問題に触れながら確認していくことが必要であり、知識・理解の定着に向けた授業改善が求められます。特に活用語尾が音便化している場合は注意が必要です。

②語感を磨き語彙を豊かにする

単語の類別と関連付けながら基本を確認し、「言葉の特徴や使い方に関する事項」についての学習に力を入れることが効果的です。さらに、学んだことを活用し、話や文章の中で表現することに生かす時間の確保が求められます。また、文の構成について理解し、適切に使い分けながら、語感を磨き語彙を豊かにする学習を取り入れていくことも必要です。語句の量を増やし、語句についての理解を深めることの両面が得られる活動として、「読む」以外にも「書く」「話す」といったアウトプットが重要だと考えられます。

思考・判断・表現の分析と授業づくりのアイデア例

【思考・判断・表現】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中3	65.3	85.3	73.6	61.8	40.6	44.7

全体の正答率は65.3%でA-D層の差は44.7ポイントでした。特に次にあげる問題5(4)の正答率は次の通りとなっており、パターン判定はⅢでした。D層では正答にたどり着くことができない生徒が多くいました。

【問題5(4)の正答率】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中3	52.1	80.2	59.4	45.8	22.0	59.2

このような結果となる要因として、資料が自分の考えの根拠としてふさわしいかどうか検討できていないことが挙げられます。このことについて授業づくりのアイデア例を右側に掲載します。

（4）あなたは、昼寝タイムの導入に賛成ですか、反対ですか。意見文の下書きの「う」にあてはまる文章を、次の〈条件1・2〉に従って九十字以上、百字以内で書きなさい。（ただし句読点は字数に含めます。）

〈条件1〉賛成か反対かのどちらを選ぶかを書くこと。（どちらを選ぶかは、この問題の正誤に影響しません。）

〈条件2〉考えの根拠として、「資料1」「資料4」のうちから二つの資料を選び、それぞれの資料から読み取れる内容を、自分の選んだ立場の根拠として書くこと。

【授業づくりのアイデア例】

① 自分の考えの根拠を明確にする

自分が書いた文章の根拠として、資料を用意する活動を行います。弁論などの自分で書いた文章を400字程度に要約します。その際、資料を必ず引用することとし、資料と合わせて説明することで、資料が持つ説得力について思考する活動を行うことができます。

資料のどの部分が自分の主張を補強しているかを示す活動を取り入れることで、自分の考えの根拠を明確にすることにつながります。

② 他領域との関連を生かす

話すこと・聞くことの領域と関連させて、ディベートなどの話し合い活動とともに書く活動を取り入れます。ディベートの準備として集めた資料をそれぞれの視点から読み取り、情報を整理して自分の意見を持ちます。そのうえで、論題に対する自分の立場を明示し、400字程度の意見文を書きます。話し合いという目的意識を持ち、集めた資料を根拠に、自らの意見をまとめます。書くことを話すこと・聞くことにつなげていきます。

主体的に取り組む態度の分析とアイデア例

【質問内容】
【2】「友達が書いた文章や話したことを参考にして、自分にはない新しい考えや自分とは違う考えを持とうとしている。」

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中1	83.6	91.8	88.9	82.3	71.1	20.7
令和7年度・中2	85.2	92.3	89.7	84.4	74.0	18.3
令和6年度・中1	83.6	90.0	85.6	82.9	75.8	14.2
令和7年度・中3	86.6	93.5	91.0	85.2	76.3	17.2
令和6年度・中2	84.1	91.6	87.9	84.1	72.9	18.7
令和5年度・中1	85.3	92.0	87.6	84.4	76.5	15.5

【分析結果】
調査結果では、調査を実施した全学年において、すべての層で高い数値になっています。しかし、CD層の差が大きい傾向が見られます。すべての学年で、D層の生徒が周りの人の書いた文章や話し合い活動での意見から自分にはなかった新しい考えをもとうとする態度を身につけることが課題として考えられます。そのためにも、グループワークや話し合い活動の際に、D層の生徒への声かけが大切です。周りの人の意見を視覚化し、自分の意見に取り入れやすくなる工夫が必要です。

【授業づくりのアイデア例】

個人の意見を持つ・まとめる

効果的にグループワークや話し合い活動を行うためにも、まず個人の活動において意見をもつことが必要となります。ミライシードのオクリンクプラスを活用することで、一つの発問に対して個人の意見を「カード」にまとめることができます。言葉にまとめることが苦手な生徒も画像や動画を使用することで、自分の伝えたいことが表現できます。

グループワークで学びを深める・まとめる

個人の意見を全体に共有することで多くの意見に触れることも可能です。グループワークや話し合い活動を通して、自分の意見を再構築し、学び合いを深めることができます。「個人の意見」と「周りの人の意見に触れた後の意見」を記入するプリントやオクリンクプラスのマイボードを活用して、考えの変容を捉えることもできます。変容に気付くことで学習への意欲の向上にもつながります。まずは個人の意見をもち、周りの人の意見に触れ、自分にはない考えや意見をもちやすくなるための手立てが考えられます。

意識調査の分析とアイデア例

【質問内容】

【45】「自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる。」

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中1	62.3	74.4	66.5	58.6	49.8	24.6
令和7年度・中2	61.0	73.1	66.5	57.9	47.1	26.0
令和6年度・中1	63.2	74.5	69.0	58.6	51.0	23.5
令和7年度・中3	63.1	75.1	67.5	59.0	51.4	23.7
令和6年度・中2	60.6	73.1	65.0	57.3	47.4	25.7
令和5年度・中1	65.6	76.7	68.5	64.1	53.2	23.5

【分析結果】

調査結果では、調査を実施したすべての学年でA-D層の差が20ポイント以上あることがわかります。また、中2が最もA-D層の差が大きく、中3になるとA-D層の差が小さくなる傾向が経年で見られます。中1の学習において、自分の意見や考えをもち、それを相手にわかりやすく伝えようとする意識づけが課題として考えられます。課題に対して、語彙力や言葉に関する知識の習得を丁寧に進めるとともに、グループワークなどの活動を通じて自分の考えを伝える場面を設定していく必要があります。

【授業づくりのアイデア例】

個人学習で語彙を増やす

教科書の言葉を調べるだけではなく、ミライシードの「オクリンクプラス」を活用し、一つの文章を説得力がある文になるように添削するという活動が挙げられます。お題となる文章を確認し、より相手に伝わる言葉を調べる活動を通じて語彙を増やします。その後、グループワークで意見を共有します。

協働学習で語彙を増やす

グループで意見を出し合いながらより説得力のある言葉を調べます。これにより、自分の知らない言葉を調べ、意味を知ることにもつながります。そうして、語彙力や言葉に関する知識が身に付きます。完成した文章をクラス全体に共有することで、周りの意見に触れ、新たな知識を得る機会になります。このように、個人での学習だけではなく、グループワークから語彙力や言葉に関する知識を身に付けることも可能であり、自分の考えや意見を相手に伝える場面が増えます。協働学習により、わかりやすく相手に伝えることが苦手な生徒に対する手立てが考えられます。

第2章 II 3 中学校 社会科

1年生

知識・技能の分析と授業づくりのアイデア例

【知識・技能】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中1	47.7	73.9	54.1	39.7	23.1	50.8

知識・技能の設問における平均正答率は47.7%でした。歴史上の人物名を解答する問題は学習の成果が表れていましたが、政治に関する問題や近代以降の問題の理解がやや不十分でした。

【問題1(3)の正答率】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中1	55.8	83.7	65.3	46.8	27.7	56.0

この問題における A層の平均正答率は83.7%であり、十分理解できていると捉えることができますが、D層の正答率27.7%であり、A-D層の差が56ポイントありました。

〔3〕 日本国憲法では、「平和主義」の原則のもと、世界で唯一の被爆国として非核三原則を掲げています。次の資料2で示したあ～えの都道府県のうち、原子爆弾が投下された都市がある都道府県の組み合わせとして正しいものを、あとの1～4から1つ選んで、解答用紙の番号に○をつけなさい。

1 あとう 2 あとえ 3 いたう 4 いとえ



【授業づくりのアイデア例(地歴公民)】

歴史的事象と地理的条件を関連付ける 学習活動の展開

小学校学習指導要領解説社会編では「日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦」については、「広島・長崎への原子爆弾の投下など、国民が大きな被害を受けたことがわかること」と示されています。小学校でこうした指導がなされていたことを踏まえ、中学校では歴史に関わる事象を地理的条件と関連付ける学習活動を取り入れる工夫が考えられます。

本問の場合では、原子爆弾が投下された都市の名称だけでなく位置を理解している必要があります。

「日本の地域構成」において、都道府県の名称と都道府県庁所在地名のほかに、歴史や文化などの地域的特色について、地図帳の活用や白地図に書き込む学習活動を行うことで、三分野の関連を図り、社会科全体としてまとまりのある学習を展開することができます。

1年生

思考・判断・表現の分析と授業づくりのアイデア例

【思考・判断・表現】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中1	30.5	52.4	32.7	22.4	14.5	37.9

思考・判断・表現の設問における平均正答率は30.5%であり、理解は不十分でした。特に記述式の問題に課題が見られました。

【問題4(5)の正答率】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中1	48.4	90.6	65.7	31.3	5.8	84.8

この問題における平均正答率は48.4%であり、理解はやや不十分でした。A層の平均正答率は90.6%であり、十分理解できていると捉えることができますが、D層の正答率は5.8%であり、A-D層の差が84.8ポイントありました。

(5) 年表中の下線部③をきっかけに幕府が行ったことについてまとめた次の
 の文中の い にあてはまる内容を書きなさい。

資料2



資料2は、踏み絵とよばれていたものです。踏み絵は、
 ことを幕府に証明するために使用され、証明できなかった人は処罰され
 ました。

【授業づくりのアイデア例(歴史的分野)】

政策の意義やその政策による
 社会的な影響について考えさせる授業展開

本問の場合では、踏み絵を使用する意義について理解している必要があります。

授業で、「江戸幕府の対外政策は日本に何をもたらしたのだろう。」という学習課題を設定し、絵踏みをすることや貿易船を制限することなどといった政策を調べたりする中で、その政策の意義や社会的な影響について多面的・多角的に考察し、表現する授業が考えられます。このような学習を行うことで、生徒は歴史的事象の発生要因が他の歴史的事象とも関わり合っていることがわかり、時代の流れを大観する力が身に付きます。また、時代の流れを大観する中で身に付けた知識や概念を使い、よりよい社会の実現を視野に現代社会に見られる課題を解決しようとする授業を展開することで、主体的な学習に取り組む態度を養うことができると考えられます。

2年生

知識・技能の分析と授業づくりのアイデア例

【知識・技能】

知識・技能の設問における平均正答率は50.8%でした。同一母集団の経年変化で見ると、昨年度の54.1%と比べ、3.3ポイントの差がありました。

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中2	50.8	76.2	55.9	42.7	27.8	48.4

【問題7(1)の正答率】

平清盛について述べた文を選ぶ問題で、平均正答率は64.6%でした。A層の平均正答率が90.4%と十分理解していると捉えられますが、D層の正答率は38.7%となり、A-D層の差が51.7ポイントありました。

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中2	64.6	90.4	71.8	57.7	38.7	51.7

【授業づくりのアイデア例(歴史的分野)】

小学校の既習事項を生かした 全員がわかるを実感する授業の展開

平清盛は小学校での既習事項である人物であることから、導入でその時代の重要な人物を年表とともに確認する展開が考えられます。

例えば、「どのようにして武士が台頭したか説明できる」ことを単元のねらいとするのであれば、教科書に記載されている平清盛・源頼朝・後鳥羽上皇などの人物が挙げられます。これらの人物と年表の歴史的事象の関係を表にまとめるような単元を見通す導入にすることで、全員がその時代に活躍した人物の功績や偉業などについて知ることができます。この後の展開として、貴族社会と武家社会の違いについて多面的・多角的に整理分析することで、源氏と平清盛の偉業との違いや後鳥羽上皇の政治的役割について理解が深まり、武士が台頭した理由を根拠をもって自分の言葉で説明することにつながります。

図：ひろとさんと頼朝と平清盛、平家物語の時代背景を説明するための年表。源氏と平家物語の時代背景を説明するための年表。

年	出来事	源氏と平家物語の時代背景を説明するための年表
1156年	源氏の戦	源氏の戦
1159年	平家の戦	平家の戦
1161年	大倉山	大倉山
1162年	平家の戦	平家の戦
1163年	大倉山	大倉山
1164年	平家の戦	平家の戦
1165年	大倉山	大倉山
1166年	平家の戦	平家の戦
1167年	大倉山	大倉山
1168年	平家の戦	平家の戦
1169年	大倉山	大倉山
1170年	平家の戦	平家の戦
1171年	大倉山	大倉山
1172年	平家の戦	平家の戦
1173年	大倉山	大倉山
1174年	平家の戦	平家の戦
1175年	大倉山	大倉山
1176年	平家の戦	平家の戦
1177年	大倉山	大倉山
1178年	平家の戦	平家の戦
1179年	大倉山	大倉山
1180年	平家の戦	平家の戦
1181年	大倉山	大倉山
1182年	平家の戦	平家の戦
1183年	大倉山	大倉山
1184年	平家の戦	平家の戦
1185年	大倉山	大倉山
1186年	平家の戦	平家の戦
1187年	大倉山	大倉山
1188年	平家の戦	平家の戦
1189年	大倉山	大倉山
1190年	平家の戦	平家の戦
1191年	大倉山	大倉山
1192年	平家の戦	平家の戦
1193年	大倉山	大倉山
1194年	平家の戦	平家の戦
1195年	大倉山	大倉山
1196年	平家の戦	平家の戦
1197年	大倉山	大倉山
1198年	平家の戦	平家の戦
1199年	大倉山	大倉山
1200年	平家の戦	平家の戦
1201年	大倉山	大倉山
1202年	平家の戦	平家の戦
1203年	大倉山	大倉山
1204年	平家の戦	平家の戦
1205年	大倉山	大倉山
1206年	平家の戦	平家の戦
1207年	大倉山	大倉山
1208年	平家の戦	平家の戦
1209年	大倉山	大倉山
1210年	平家の戦	平家の戦
1211年	大倉山	大倉山
1212年	平家の戦	平家の戦
1213年	大倉山	大倉山
1214年	平家の戦	平家の戦
1215年	大倉山	大倉山
1216年	平家の戦	平家の戦
1217年	大倉山	大倉山
1218年	平家の戦	平家の戦
1219年	大倉山	大倉山
1220年	平家の戦	平家の戦
1221年	大倉山	大倉山
1222年	平家の戦	平家の戦
1223年	大倉山	大倉山
1224年	平家の戦	平家の戦
1225年	大倉山	大倉山
1226年	平家の戦	平家の戦
1227年	大倉山	大倉山
1228年	平家の戦	平家の戦
1229年	大倉山	大倉山
1230年	平家の戦	平家の戦
1231年	大倉山	大倉山
1232年	平家の戦	平家の戦
1233年	大倉山	大倉山
1234年	平家の戦	平家の戦
1235年	大倉山	大倉山
1236年	平家の戦	平家の戦
1237年	大倉山	大倉山
1238年	平家の戦	平家の戦
1239年	大倉山	大倉山
1240年	平家の戦	平家の戦
1241年	大倉山	大倉山
1242年	平家の戦	平家の戦
1243年	大倉山	大倉山
1244年	平家の戦	平家の戦
1245年	大倉山	大倉山
1246年	平家の戦	平家の戦
1247年	大倉山	大倉山
1248年	平家の戦	平家の戦
1249年	大倉山	大倉山
1250年	平家の戦	平家の戦
1251年	大倉山	大倉山
1252年	平家の戦	平家の戦
1253年	大倉山	大倉山
1254年	平家の戦	平家の戦
1255年	大倉山	大倉山
1256年	平家の戦	平家の戦
1257年	大倉山	大倉山
1258年	平家の戦	平家の戦
1259年	大倉山	大倉山
1260年	平家の戦	平家の戦
1261年	大倉山	大倉山
1262年	平家の戦	平家の戦
1263年	大倉山	大倉山
1264年	平家の戦	平家の戦
1265年	大倉山	大倉山
1266年	平家の戦	平家の戦
1267年	大倉山	大倉山
1268年	平家の戦	平家の戦
1269年	大倉山	大倉山
1270年	平家の戦	平家の戦
1271年	大倉山	大倉山
1272年	平家の戦	平家の戦
1273年	大倉山	大倉山
1274年	平家の戦	平家の戦
1275年	大倉山	大倉山
1276年	平家の戦	平家の戦
1277年	大倉山	大倉山
1278年	平家の戦	平家の戦
1279年	大倉山	大倉山
1280年	平家の戦	平家の戦
1281年	大倉山	大倉山
1282年	平家の戦	平家の戦
1283年	大倉山	大倉山
1284年	平家の戦	平家の戦
1285年	大倉山	大倉山
1286年	平家の戦	平家の戦
1287年	大倉山	大倉山
1288年	平家の戦	平家の戦
1289年	大倉山	大倉山
1290年	平家の戦	平家の戦
1291年	大倉山	大倉山
1292年	平家の戦	平家の戦
1293年	大倉山	大倉山
1294年	平家の戦	平家の戦
1295年	大倉山	大倉山
1296年	平家の戦	平家の戦
1297年	大倉山	大倉山
1298年	平家の戦	平家の戦
1299年	大倉山	大倉山
1300年	平家の戦	平家の戦

(1) 年表中の下線部分に該当した後の「平家物語」について述べた文として最も適切なものを、次の1～4から1つ選び、解答用紙の番号に○をつけなさい。

- 1 武士が初めて大政大臣となり、軍事大官の府として朝廷との関係を深めるなどして、勢力を伸ばした。
- 2 源氏の戦いに勝利した後、兄との対立が深まり、奥州藤原氏の下にのめられた。
- 3 武士の勢力をいっしょに統一したほか、朝廷の形を模倣して幕府を始めた。
- 4 朝廷の勢力を回復するため軍兵したが敗れ、隠岐(隠岐県)に流された。

2年生

思考・判断・表現の分析と授業づくりのアイデア例

【思考・判断・表現】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中2	58.7	83.2	69.9	54.0	27.6	55.6

思考・判断・表現の設問における平均正答率は58.7%でした。同一母集団の経年変化で見ると、昨年度よりも平均正答率が23.8ポイント上昇し、全ての層で平均正答率が上昇する結果となりました。

【問題8(3)の正答率】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中2	20.3	41.6	21.5	13.3	4.9	36.7

この問題における平均正答率は20.3%でした。A層の平均正答率が41.6%となっており、理解はやや不十分でした。また、BからD層の平均正答率は30%を下回り、理解は不十分でした。

(注) 読みの正しい後、あなたは米の生産量が多い国について調べるなかで次の資料と一資料を基に、さらに中国に注目してレポートを作成しました。レポート中の「え」と「う」にあてはまる内容を問題に答えなさい。

資料3 米の最も生産量が多い国 (2022年)

国	生産量 (1000トン)
インド	297.2
中国	201.9
アメリカ	127.8
その他	22.8

資料4 米の最も消費量が多い国 (2022年)

国	消費量 (1000トン)
インド	247.7
中国	21.9
アメリカ	9.8
その他	36.3

資料5 世界の米の生産と消費の差 (2022/23年)

国	生産量 (1000トン)	消費量 (1000トン)	差 (1000トン)
インド	297.2	247.7	49.5
中国	201.9	21.9	180.0
アメリカ	127.8	9.8	118.0
その他	22.8	36.3	-13.5

レポート 中国の米の生産について

国の特徴：

- ・アジア州・東アジアに位置する。
- ・世界の国のなかでも人口が多い。

米の生産について：

- ・資料3と資料4を見ると、インドなどにくらべて、中国は米の「う」ことがわかる。
- 中国では米を主食とする人が多く、資料5からわかるように「え」ことが理由だと考えられる。

【授業づくりのアイデア例(地理的分野)】

他地域との比較をする活動を通じて
地域的特色を明らかにする授業展開

本問の場合では、複数のグラフを読み取り、中国における米の生産と消費についての特徴を推察する力を身に付ける必要があります。

北アメリカ州の農業の特色を学習する上で、気候、緯度、国土の面積など、自然環境、地形の特色が似た中国と比較すると、中国では米の生産量が多く、アメリカと同様にその国で主食となっている穀物の生産が盛んであることが理解できます。しかし、人口や国内消費量についてアメリカと比較するといずれも中国の方が上回っています。

このように地形、自然環境、生活習慣や文化など複数の資料を活用し、さまざまな要因を関連付けながら、地域的特色をより深く考察することにより、総合的な問題に対応する力が身に付くと考えられます。

3年生

知識・技能の分析と授業づくりのアイデア例

【知識・技能】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中3	56.6	77.7	62.9	51.4	34.5	43.2

知識・技能の設問における平均正答率は56.6%でした。同一母集団の経年変化でみると、昨年度よりも1.7ポイント上昇する結果となりました。また、A-D層の平均正答率の差も縮まりました。

【問題2(2)(ア)の 正答率】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中3	59.5	88.2	66.1	49.6	34.0	54.2

この問題における平均正答率は59.5%であり、理解はやや不十分でした。また、A層とB、C、D層の間に大きな差があり、A-D層の差は54.2ポイントとなっています。

資料2 ため池の地理的分布（2003年）

資料3 高尾市・尾道市・高尾市に夏の降水量（mm）

	高尾市	尾道市	高尾市
7月	156.8	188.8	157.3
8月	186.8	128.8	284.3
9月	167.4	225.4	191.1
年合計	1151.2	1901.2	1886.3

ア 下図表1について説明した文として最も適切なものを、次の1～4の中から1つ選び、解答用紙の番目に○をつけなさい。

- 夏の暑い時期を利用して、他の地域よりも1週間ほど遅れたキャベツ・レタスなどの野菜を、出荷先を使って高尾市へ出荷している。
- 温暖な気候とビニールハウスなどを利用して、他の地域より1週間ほど早くキャベツ・レタスなどの野菜を出荷している。
- 温暖な気候を利用して、さとうきび・パイナップルなどの生産を行っている。近年は早く出荷し、出荷先を使って高尾市へ出荷している。
- 水を多く含む1週間ほど遅れた地域が1週間、高尾市に遅くても出荷し、高尾市に早くても出荷している。

りこ：高尾市で行われている農業について調べているときに、資料2と資料3を見つけたよ。
 そら：高尾市と高尾市には、多くのため池が分布しているんだね。この資料2における高尾市とは、どこを指すのかな。
 りこ：高尾市に面している岡山県、広島県、山口県、香川県、愛媛県のことみたいだね。
 そら：資料3とあわせて考えると、ため池が多い理由がわかりそうだね。

【授業づくりのアイデア例(地理的分野)】

そこに暮らす人々の生活や産業と地域の地形や気候などの自然環境との関連性についての理解を促す授業展開

農業と自然環境との関連性についての理解を促す授業展開としては、降水量や地形が農業に与えている影響とはどのようなものなのかを思考する活動が考えられます。

四国地方における学習の場合、雨温図を活用して四国地方の気候の特色を捉える活動を取り入れることや、四国地方の農業の様子がわかる写真や映像を示し、気候と農業がどのように関連付いているのかを考える活動を取り入れることが必要です。例えば、雨温図とともに四国地方の農業の特色が見える写真やグラフを示し、南四国は1年を通して暖かい気候であるため、ビニールハウスなどを利用して、他の地域より出荷の時期を早めた促成栽培が盛んだということに気付くことができるような活動を行うことが考えられます。また、自然環境が人々の生活全体に影響を与えているという理解を促すことにもつながります。

3年生

思考・判断・表現の分析と授業づくりのアイデア例

【思考・判断・表現】

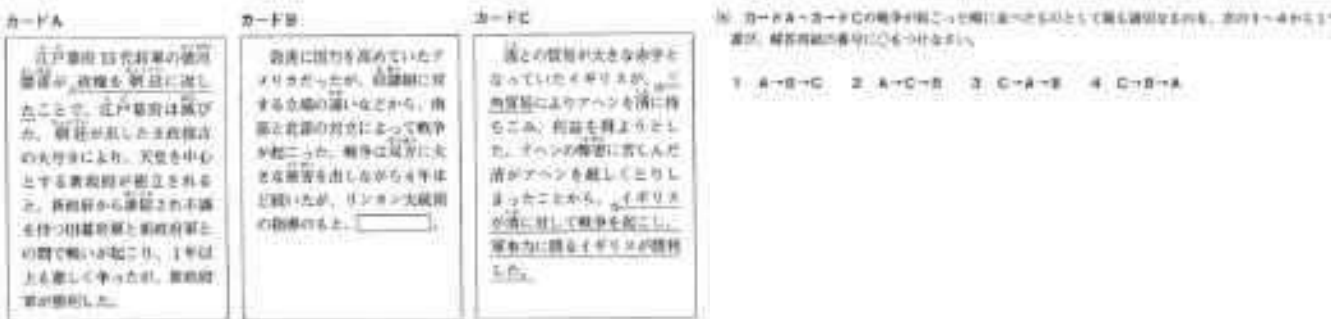
年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中3	48.5	76.9	57.1	39.8	20.1	56.8

思考・判断・表現の設問における平均正答率は48.5%でした。同一母集団の経年変化で見ると、昨年度よりも13.7ポイント上昇しました。また、A-D層の平均正答率の差はやや広がりました。

【問題6(5)の正答率】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中3	28.7	47.0	30.5	21.1	16.0	31.1

この問題における平均正答率は28.7%であり、理解が不十分でした。並べ替え問題において、同一母集団の経年変化でみると、昨年度と比べて平均正答率は上昇しましたが、A-D層の差は31ポイントとなっています。



【授業づくりのアイデア例(歴史的分野)】

世界の動きと関連付けて
我が国の歴史的特色を理解する授業展開

本問の場合では、我が国の近世から近代にかけての時代を大観し、世界の動きとの関連を踏まえて、その時代の特色を捉える活動を取り入れていく必要があります。

国内で起こった江戸時代後半の外国船の接近や、それに対応した幕府による北方の調査や異国船打払令などの事象と、産業の発展による、さまざまな対立など国外で起こった事象の関連性に着目していきます。

具体的な活動として、年表を活用し、国内と国外の歴史の流れを視覚的に理解する必要があります。子ども自身で年表にまとめるなど、それぞれの出来事に対して「なぜそうなったのか」「その後どうなったのか」といったことについて考える活動を通して、出来事の因果関係を捉えられるように工夫することが必要です。

主体的に取り組む態度の分析とアイデア例

【質問内容】
授業で設定した学習の問題(課題)を、進んで調べたり、考えたりして解決しようとしている。

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中1	77.4	87.6	81.2	74.0	66.7	20.9
令和7年度・中2	72.8	85.5	77.9	70.1	57.8	27.7
令和6年度・中1	74.9	87.0	78.5	71.1	62.7	24.3
令和7年度・中3	78.0	88.0	81.7	78.3	64.1	23.9
令和6年度・中2	71.0	83.7	75.3	68.1	56.9	26.8
令和5年度・中1	77.1	87.4	80.4	74.5	66.0	21.4

【分析結果】
質問番号2の令和7年度の肯定的な回答割合は中1が77.4%、中2が72.8%、中3が78.0%でした。また、A層の肯定的な回答割合はいずれも80%以上となり、高い割合を維持しています。しかし、A-D層の差はいずれの学年においても20ポイント以上開いていました。
このことから、D層の生徒を含めた全ての生徒が授業で設定した学習の問題(課題)を、進んで調べたり、考えたりして解決することができるような授業をつくっていくことが重要になります。

【授業づくりのアイデア例】
1単位時間の授業に学ぶ目的をもたせるための
系統性ある単元づくり
単元を構想していく上で、単元を通して学習する目的となる「単元を貫く課題」を適切に設定することは、とても大切なことです。
単元を構想する際に、「単元を貫く課題」を解決させるために必要となる見方・考え方、様々な知識や概念を各1単位時間の学習に適切に配置することで、その単元の終末にそれらを有機的に関連付ける場面を設定することができます。例えば国家統合を主題としたヨーロッパ州の学習では、「EUはどのような経緯でその構成国を変化させてきたのか」といった問いを立て、「EUの空間的広がり」や「EU統合の歴史的背景」、「EU統合がもたらす成果と課題」などに関連する知識や概念を各1単位時間の学習に適切に配置し、EUにおける地域の特異性や地域特有の課題などを単元の終末に表現することが考えられます。
このように、単元で学習する内容に系統性をもたせることで生徒は各1単位時間の学習に関心や探究心をもちながら学習することができます。

意識調査の分析とアイデア例

【質問内容】

社会の授業で、グループで話し合いや教え合いをしている。

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中1	73.3	80.8	75.2	73.3	64.4	16.4
令和7年度・中2	73.8	83.0	77.0	73.8	62.4	20.6
令和6年度・中1	71.7	78.7	75.4	69.7	63.6	15.1
令和7年度・中3	75.1	81.2	77.1	76.4	66.8	14.4
令和6年度・中2	71.4	77.2	74.6	71.7	63.0	14.2
令和5年度・中1	71.1	79.2	73.8	70.1	61.3	17.9

【分析結果】

質問番号96の令和7年度の肯定的な回答割合は、中1が73.3%、中2が73.8%、中3が75.1%でした。

同一母集団の経年変化を見ると、令和6年度から令和7年度にかけて肯定的な回答割合は上昇していましたが、A-D層の差は大きくなっていました。

このことから、D層の生徒を含めた全ての生徒が社会科の授業でわかってきたことを生かしてグループやペアで話し合いや教え合いができるような授業をつくっていくことが重要になります。

【授業づくりのアイデア例】

多面的・多角的に考察してより深く社会的事象の特色や意味を理解するためのグループ学習

社会科の学習では、社会的事象を単に知識として覚えるだけではなく、その社会的事象を政治的、経済的、文化的、社会的など、様々な側面から捉えたり、政府、国民、他国など、異なる立場から捉えたりして、包括的に理解することが大切です。

そのためには、一つの社会的事象について多面的・多角的に考察させるような学習課題を設定し、少人数グループをつくって「いくつかの側面」や「いくつかの立場」について分担して調べたり、考察したりする学習活動を展開していくことが考えられます。その際、学習課題や活用する資料を生徒の実態に合わせて設定することが大切です。また、調べたり、考察したりしたことを整理する時間や、生徒同士で共有する時間を十分に確保することも大切です。

このように、意図的に生徒同士で教え合う機会をつくることで自らの学びを調整しながら、より深く社会的事象を理解することにつながります。

第2章 II 4 中学校 数学科

1年生

知識・技能の分析と授業づくりのアイデア例

【知識・技能】

全体の正答率は69.2%でパターン判定はⅢとなっており、A-D層の差は56.2%である。次にあげる問題問題②(5)①の正答率は下表の通りになっており、C、Dの正答率がほぼ同じになっている。

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中1	69.2	92.7	81.3	66.4	36.5	56.2

【問題②(5)①の正答率】

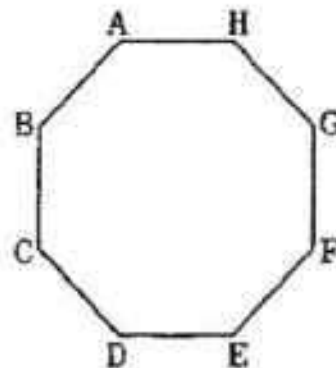
このような結果となる要因として、線対称な図形の特徴と対称の軸との関係を捉えられていないことがあげられます。

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中1	54.5	67.4	53.8	47.3	49.6	20.1

(5) 右の図のような正八角形 ABCDEFGH は線対称でもあり、点対称でもある図形です。

① 対称の軸は全部で何本ありますか。次の1～4から1つ選んで、解答用紙の番号に○をつきなさい。

- | | |
|------|------|
| 1 2本 | 2 4本 |
| 3 5本 | 4 8本 |



【授業づくりのアイデア例】

対称な図形の線対称な図形の対称の軸について

小学6年生のときに対称な図形で線対称な図形を学習していますが、対角線と対称の軸の言葉の意味をしっかりと理解していない様子が見られます。

中学1年生では図形の移動で再度、対称の軸を学びます。そのときに、実際に紙を用意して、実際に折る活動を通して、具体物を用いて実感的に理解することにつなげます。

<発問>

- ① 正三角形は線対称な図形ですか。
- ② 線対称な図形の場合対称の軸は何本ありますか。
- ③ 対称の軸で切り図形を2つにして、2つの三角形をノートに貼り、対称の軸を1本書きましょう。

正三角形だけでなく、正方形、正五角形、正六角形…と取り組むと、対称の軸という言葉の意味を理解し、対称移動に繋げていくことができると思いました。

2年生

知識・技能の分析と授業づくりのアイデア例

【知識・技能】

知識・技能の全体の正答率は65.6%で、パターン判定はⅢ(一部の生徒に課題あり)でした。特に次にあげる問題②(3)の正答率は以下の通りとなっており、知識・技能を問う全体の問題の中でもA-D層の差が85.8ポイントと一番大きく開き、B層・C層の正答率が低いことも分かります。

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中2	65.6	93.0	78.6	60.6	30.3	62.7

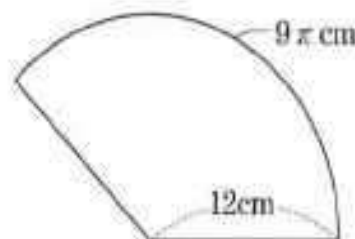
【問題②(3)の正答率】

4層分析データの結果から、パターン判定はIでした。A-B層の差が37ポイント程度開き、無解答率についても21%と高く、多くの生徒にとって理解が不十分な状況であることが伺えます。

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中2	40.9	89.7	52.2	17.9	3.9	85.8

②

(3) π は円周率とします。右の図のような、半径が12cm、弧の長さ 9π cmのおうぎ形の中心角の大きさを求めなさい。



【授業づくりのアイデア例】

おうぎ形の中心角を求める

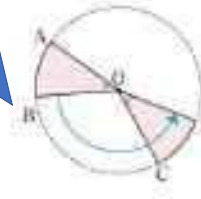
単元全体を通して、おうぎ形の弧の長さや面積の公式をつくる過程を大切に、おうぎ形を円の一部分として捉え、中心角と弧の長さや面積の関係を見いだす学習活動の充実を図ることが必要です。具体的には、弧の長さや面積がおうぎ形の中心角の大きさに比例する数量となっていることを見いだす場面で、以下の2通りの考え方を関連付けて理解することが大切です。

① 中心角を a とおいて、方程式を解いて求める

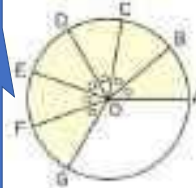
② 半径の等しいおうぎ形と円の関係から比の性質を用いて求める

また、C層やD層の生徒については、分度器を使用し角度を測定するなどして、見通しを立てさせることも有効的な指導です。

1つの円で、中心角の大きさが等しいおうぎ形の弧の長さや面積は等しい。



おうぎ形の中心角の大きさを2倍、3倍、4倍、...にすると、弧の長さはどうなるだろうか？



【例】観察、操作や実験を通して、円とおうぎ形を関連付けることで、おうぎ形の弧の長さや面積とその中心角の大きさの関係を効果的に理解させることができます。

思考・判断・表現の分析と授業づくりのアイデア例

【思考・判断・表現】

全体の正答率は、パターン判定が昨年度はⅢであったものが今年度はⅠになりました。D層だけでなく、B・C層のつまずきにも丁寧に対応することが必要です。次にあげる問題⑤(2)は、アは選択式、イは短答式で正答率に開きがあることがわかります。

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中2	46.4	84.8	54.8	33.0	13.1	71.7
令和6年度・中1	55.1	89.5	69.5	45.5	16.0	73.5

【問題⑤(2)アイの正答率】

イの正答率は36.8%です。式が何を表しているか正しいものを選ぶことはできますが、方程式を立式することに課題があります。

	年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
			A層	B層	C層	D層	A-D層の差
⑤(2)ア	令和7年度・中2	73.8	96.9	90.0	75.6	33.0	63.9
⑤(2)イ	令和7年度・中2	36.8	88.7	47.7	9.7	1.1	87.6

⑤ 次の問題と【解き方】を読んで、あとのア、イの問いに答えなさい。

問題

ビー玉を、兄は45個、弟は29個持っています。兄から弟にビー玉を何個かあげて、兄の個数が弟の個数より10個多くなるようにします。兄が弟にあげるビー玉の個数を求めなさい。

この問題を次のように解きました。

【解き方】 兄が弟にあげるビー玉の個数を x 個とすると、

$(45 - x) = (29 + x) + 10$

この方程式を解くと、 $x = 8$

この解は問題にあっている。

(答え) 8

ア 下欄の式 $(45 - x) = (29 + x) + 10$ は何を表していますか。次の1～4から1つ選び、解答用紙の番号に○をつきなさい。

- 1 兄が弟にビー玉をあげる前に兄が持っていたビー玉の個数
- 2 兄が弟にビー玉をあげた後に兄が持っているビー玉の個数
- 3 兄が弟にビー玉をあげる前に弟が持っていたビー玉の個数
- 4 兄が弟にビー玉をあげた後に弟が持っているビー玉の個数

イ **【解き方】** 中の x にはまる数を意味し、 10 にはまる数を、それぞれ書きなさい。

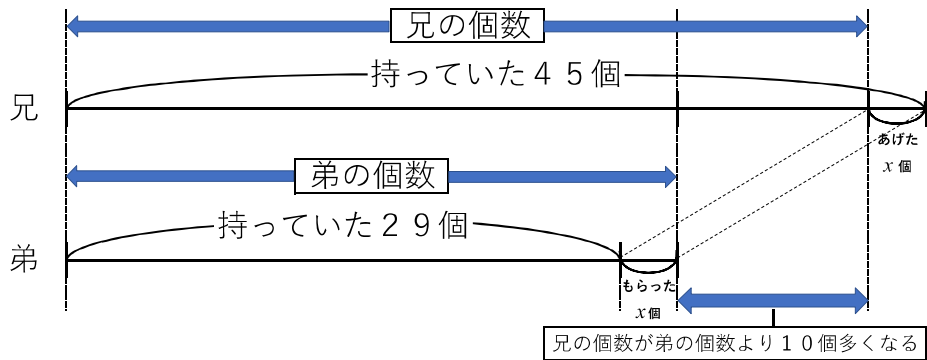
【授業づくりのアイデア例】

数量の関係や法則などを文字を用いた式で表す

等しい数量の関係を捉え、言葉の式で表すことを丁寧に扱うことが大切です。その際、線分図や表などで視覚的に理解することも大切です。

問題

ビー玉を、兄は45個、弟は29個持っています。兄から弟にビー玉を何個かあげて、兄の個数が弟の個数より10個多くなるようにします。兄が弟にあげるビー玉の個数を求めなさい。



言葉の式で表すと、(兄の個数) = (弟の個数) + 10 になります。つまり、

$$(45 - x) = (29 + x) + 10$$

↑ (兄の個数) ↑ (弟の個数)

小学校では、言葉の式、□、△などを用いた式、 a や x 等の文字を用いた式で表すことを学習しています。例題として取り上げ、類題を解く機会をつくり、定着をはかる必要があります。

3年生

知識・技能の分析と授業づくりのアイデア例

【知識・技能】

全体の正答率は60.9%で

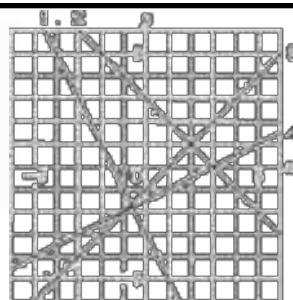
パターン判定はⅢであり、C層ーD層の差が大きいということが分かります。実際に差は25.8ポイントであり、D層の生徒に課題が見られるという結果となっています。

【問題3(5)の正答率】

市全体では43.2%の

正答率となりました。パターン判定はIでA層とBCD層の差が大きいという結果となりました。A層ーB層は36.9ポイントとなりほとんどの生徒が理解できていないことが明らかになりました。また、誤答では選択肢2の反応率が23.4ポイントでした。この選択肢2は $x - 2y = 3$ の3に着目をし、切片が3である選択肢を選んでいること、2元1次方程式を関数を表す式とみていないことに要因があります。1次関数の式 $y = ax + b$ について、係数や定数が何を表しているのか実感を持った理解が必要になります。

(5) 1次関数 $x - 2y = 3$ のグラフを、右の1～4から1つ選んで、解答用紙の番号に○をつけなさい。



年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中3	60.9	91.6	74.7	53.5	23.7	67.9

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・中3	43.2	85.7	48.8	21.5	16.9	68.8

【授業づくりのアイデア例】

2元1次方程式 $ax + by + c = 0$ を
一次関数の式とみることを理解する

問3 方程式 $2x + 3y = 7$ のグラフを

左の図にかきなさい。

また、そのグラフのかき方を

説明しなさい。

$x=0$ を代入しても、
 y の値は整数にならないし、
 $y=0$ を代入しても、
 x の値は整数にならないよ。



上記の問題は2つの変数 x, y の間の関係を表した式であり、グラフのかき方を表現することをねらいとする問題です。

2元1次方程式のグラフはその方程式を成り立たせる x, y の値の組を座標にもつ点の集まりです。一方の変数のとる値を決めれば、それに対応する他の変数の値が決まることがわかり、式を基にしてグラフをつくれるようになります。

また、グラフを用いて変数 x のとる値を1つ決めれば、対応する変数 y の値が求められることを押さえることが大事です。

上記の問題 $2x + 3y = 7$ においては2点を求めることによりグラフはかけるが、 x, y の変域はすべての数になっていることにより、2元1次方程式の解は無数にあることを確認させることが大事です。